

**ウルフリヒ：—ヤマトグサ屬に就て** (E. ULBRICH: Über die Gattung *Thelygonum* SAUV. ex L. 1753, in Notizbl. Bot. Gart. u. Mus. zu Berlin-Dahlem, Bd. XI, Nr. 109, pp. 889-602 mit Fig., Aug. 1933).

本邦にも産する *Adoxa* (レンブクサウ屬), *Ellisiophyllum* (キクガラクサ屬), *Theligonum* (ヤマトグサ屬) 等のものは古來その類縁關係が明かに知られなかつた爲めにその所屬も轉々として定まらず, 植物界の困り者の觀があつた. ヤマトグサ屬はその外形の特に奇妙な爲めに早くも 1829 年に DUMORTIER が *Theligoneae* なる科名を與へたが氏は特立したものと認めずイラクサ科の附屬物として取扱つた, 此植物を全く獨立した科としたのは BAILLON や EICHLER であつて兩氏はヤマゴボウ科 (*Phytolaccaceae*) に最も近いものと考定し共に Order *Centrospermae* (中心子目) 中に置いたのに初まり POULSEN (in ENGLER, *Pflanzenfam.* ed. 1), ENGLER u. GILG, DALLA TORRE u. HARMS, ASCHERSON u. GRAEBNER 等近世の學者は之れに従つて居る. 1912 年に至り H. HALLIER が之れに對して *Halorrhagidaceae* (アリノタフグサ科) に近い關係があると考へたのは注目に値すると云ふ. 著者は此の最後の考へ方に傾いては居るが ENGLER u. PRANTL, *Naturl. Pflanzenfam.* の第二版 Bd. 16c (1933) に於てはやはり従來の通りの說に従ひ *Centrospermae* に屬せしめた.

此の植物の屬名は LINNÉ *Species Plantarum* 第一版 (1753) 963 に従へば *Theligonum* であるが意味上 *Thelygonum* となるべきであるとし著者は *Thelygonum* の名を用ひ居る. *Cynocrambe* TOURNEFORT ex GAERTN. の名は本邦ではよく知られて居るが *Thelygonum* の異名である.

*Thelygonum* [SAUV. ex] LINN. 屬は世界に三種あつて最も古くから知られて居た *Th. cynocrambe* LINN. は歐洲のカナリー島から前亞細亞にかけて地中海沿岸一帯に廣く分布する, 著者に従へば此の種は var. *majus* ULBRICH と var. *minus* ULBRICH の二變種に分たれ前者は又 forma *canariense* ULBRICH と forma *vulgare* ULBRICH とに分たれる. 第二は *Th. macranthum* FRANCH. で之れは中央亞細亞 (Ost Tibet, Prov. Moustino) に産する, 前種よりも節間が長く葉数が少く前種の雌雄同株なるに比し之れは異株である. 以上の二種は一年生の草本であつて夏になると枯れて消えてしまふが本邦のヤマトグサ即ち *Th. japonicum* OKUBO et MAKINO は多年生の草本であつて莖の下部から出た花を着けぬ側枝は平臥しその節からは根が生える, その産地は本州の中南部, 四國及び九州であつて國外にはまだ知られて居らぬ, 著者は以上の三種を擧げて居るが抄録者は本年臺灣の山地で此の屬の一種を發見し本誌前號に *C. formosanum* OHWI として發表しておいたが此れもヤマトグサ同様に多年生

のものである、著者の擧げた各種の検索表に最後の此の一種を加へて新たに検索表を作り變へて見ると

- I. 一年生, 夏ニハ枯死消失ス, 枝ハ斜上又ハ平臥スレド節ヨリ發根セス
  - A. 雌雄同株, 枝ハ四稜アリテ平臥ス, 雄花ハ長サ 5 mm. ニ達ス, ソノ花被片ハ 2-3 個, 雄蕊ハ 10-30 個 .....Th. cynocrambe LINN.
  - B. 雌雄異株, 枝ハ圓形, 斜上ス, 雄花ハ長サ 8 mm. ニ達ス, 花被片ハ 4-5 個, 雄蕊ハ約 20 個.....Th. macranthum FRANCH.
- II. 多年生, 根莖ハ短カク, 根ヲ生ズ, 花枝ハ直立又ハ斜上, 花ナキ枝ハ莖ノ下部ノ葉腋ヨリ生ジ, 平臥シテ節ヨリ根ヲ生ズ, 花ハ雌雄同株, 雄花ノ花被片ハ三個
  - A. 上部ノ互生葉ハ對生葉ヨリモ著シク小形, 且巾狭シ, 雄花ハ長サ 8-10 mm. 雄蕊ハ 19-23 個, 葯ハ長サ約 5 mm. (ヤマトグサ)  
.....Th. japonicum OKUBO et MAKINO.
  - B. 葉巾一般ニ廣ク, 互生葉ハ對生葉ト同形, 且略同大ナリ, 雄花ハ長サ 5-6 mm. 雄蕊ハ 5-7 個, 葯ハ長サ 2.5-3 mm. (シンヤマトグサ)  
.....Th. formosanum OHWI  
(J. O.)

## 雜 報

### C. P. THUNBERG: Flora Japonica 出版百五十年紀念會開催

本年は C. P. THUNBERG 氏 Flora Japonica. (1784) 出版後正に百五十年となりしかば、聊か之を紀念するの心を以て、十一月十一日なる氏の誕生日に東京植物學會の總會の席上、伊藤篤太郎翁は P. F. SIEBOLD 氏より翁の祖父伊藤圭介翁に餞別として長崎に於て親しく寄贈せられたる Flora Japonica や、瑞典語にて成れる C. P. THUNBERG 氏 Resa (旅行記) 及び同氏の著書論文、並に歐洲及び日本に於ける當時の關係書類、田中長三郎博士の撮影したる THUNBERG 氏採集日本植物寫眞を陳列し且つ是等に就て一場の談話を試みらる。

又本月十五日頃より向ふ一週間程東京上野公園文部省科學博物館に於て THUNBERG 氏に關する一般科學の著書論文、寫眞、肖像其他の物品を陳列して一般公衆に展覽せしむる由なり。

### 本號は THUNBERG 紀念號

以上の如くなるにより本誌も聊か同氏を紀念せんが爲め本號の口繪に氏の肖像を入れ、又氏の日本植物に關する論文の解題を記し、氏の誕生日なる十一月十一日に本號を發行し、以て Flora Japonica 出版百五十年紀念號とせり。